



# 行政視察報告



3つの委員会で、行政視察を行いました。

行政視察とは、町や議会の直面する課題について、高度で専門的な見識を得るため先進地に赴き、その地域の実情・事例を調査することです。

テーマごと先進自治体や議会に事業の取り組み等を伺ってきました。

生活文化委員会

- ・岐阜県岐阜市
- ・兵庫県稲見町
- ・兵庫県明石市
- ・兵庫県淡路市

議会運営委員会

- ・神奈川県愛川町
- ・神奈川県鎌倉市
- ・神奈川県湯河原町

経済総務委員会

- ・宮城県石巻市
- ・宮城県南三陸町

## 議会運営委員会

2日目は鎌倉市役所へお伺いしました。こちらは議会改革度ランキングでは上位の評価を受けております。鎌倉市ではオープンミーティングや議会報告会を活発に開催しています。

1日目の愛川町議会では、人口3万9427人、議員定数14名の町で、1999年から2024年までに議員定数を22名から14名に削減したことを伺いました。議員定数削減には、議員個々の政策立案能力の向上と意識改革が必要であると強調されました。

11月5日～7日の2泊3日で、議会運営委員会の行政視察を行いました。訪問先は神奈川県愛川町、鎌倉市、湯河原町で、議員定数削減や議会改革に関する取り組みを学びました。



4歳で、若手議員が活躍している点です。議長が43歳で6期目を迎え、議会運営委員長が35歳の3期目という若い力が感じられました。全体を通して、各市町それぞれカラーがあり、下諏訪町としても下諏訪カラーを作っていくかなければと痛感しました。視察で学んだ内容を、今後の議会運営に生かす努力して参ります。

## 議会改革



愛川町議会のみなさんと

市内5会場で行ったオープンミーティングでは、法政大学大学院の講師をファシリテーターとして招き、ワールドカフェ方式で進行。103名が参加し、1200件以上の意見が集まりました。今後は若者や女性の参加促進方法を検討中です。

最終日は湯河原町役場を訪れました。人口2万3千人、議員定数14名の町で、傍聴者増加に向けて広報誌やHP、コミュニティラジオを活用していました。特に印象的だったのは、議員の平均年齢が51.4歳で、若手議員が活躍している点です。

# 防災

# 総務経済常任委員会

10月1日～3日に総務経済常任委員会の行政視察に行つて参りました。宮城県石巻市、南三陸町を訪れ、災害時の状況と災害からの復興について学びました。

石巻市役所では、震災の状況と復興の取り組みについての説明を受けました。議会の災害対策本部は、被災地の状況や住民の声を吸い上げ市の災害対策本部情報を共有するという役割分担がしっかりとなされていたとのことです。

また同市の震災遺構である門脇小学校では、被災状況をそのまま保存した本校舎と展示物を見学しました。津波火災で焼け焦げた教室や津波でぐちゃぐちゃになった消防車等を見て、改めて当時の惨状を窺い知ることが出来ました。



南三陸町でも、震災の状況と復興の取り組みについての説明を受けました。同町は震災時高さ24mの津波が町を襲い、町内住宅の62%に当たる3321戸が罹災したそうです。防災対策庁舎は全て津波にのみ込まれ、当時屋上に避難していた職員53名中43名が亡くなり、生き残った職員は僅か10名であつたとのこと。限られた職員・人員で復興の道筋を付けていかなければならなかつた。その為に必要なモチベーション、現実的な手法等色々と考えさせられました。町長他生還した職員は、放心状態の中、多くの方の支えを得て、何とか初動を乗り切れたとのこと。亡くなった同僚の為に復興を頑張り、11年かけてなりわいと賑わいを取り戻したそうです。

# 教育×環境

# 生活文教常任委員会

生活文教常任委員会では、10月28日～30日行政視察を行いました。

1日目の岐阜市みんなの森ぎふメディアアコスモスは、「知の拠点」の役割を担う市立中央図書館、「絆の拠点」となる市民活動交流センター、「多文化交流プラザ及び「文化の拠点」となる展示ギャラリー等からなる伊東豊雄氏設計の複合文化施設です。平日の日中にも関わらず、市民の憩いの場として学生も多く利用していました。

2日目午前兵庫県稲見町の加古小学校では、令和4年度より「チーム担任制」を導入しています。チーム担任制とは、1・2年生を2人の先生で、3年生～6年生を5人の先生で担任を持ち、1週間ごとに学級担任が交替する制度です。大きな失敗になる前に、みんなでカバーし合うことができ、先生の事務的、精神的負担軽減にもなり、問題を早期に見見、解決で



きる最適な制度だと伺いました。午後は明石市の第2子以降保育料無償化と、おむつ定期便・0歳児の見守りについて伺いました。明石市は、2012年からこどもを核としたまちづくりを進め、12年連続人口増を達成している中核市です。子育て世代を市が全力で応援することで、出生率も全国平均や兵庫県平均よりも高い数値となっています。

3日目の淡路市は、脱炭素モデル事業が環境省より評価され、脱炭素先行地域に選定されています。(株)ほくだんが展開する県内初の地域新電力「あわぢから」を中核に据えた事業です。この取り組みによりエネルギーの地産地消を進めてエネルギー及び経済の自立化強靱化、安定化を図り、淡路市のコンセプトである「いつかきつと帰りたくなるまちづくり」の実現を目指しています。